

令和4年度 日本大学文理学部個人研究費 研究実績報告書

所属・資格 国文学科・特任教授

申請者氏名 荻野 綱男

研究課題		コーパスに基づく日本語研究
報告の概要	研究目的 および 研究概要	<p>近年、日本語のコーパスが整備され、安価に使えるような環境になってきた。そこで、これらのコーパスを使ってどのような日本語研究が行えるのか、さまざまに試行してみようと考えた。</p> <p>さまざまな日本語の問題に関してコーパスを利用することが考えられる。WWW もコーパスとしての性格を持っている。</p> <p>しかし、コーパスを検索した結果は、さらに分類・整理をする場合がほとんどであり、そのためには、アルバイト代を使って、人手を確保しながらやっていく必要がある。</p> <p>この作業とともに、コーパス関連の情報収集のために、学会に加入し、大会に参加することが必須である。</p>
	研究の結果	<p>新語の研究については、過去のユーキャン新語流行語大賞を受賞したキャッチフレーズの中からいくつかを取りだし、受賞年の前後数年間の WWW での出現頻度を求めた。そのデータを基に、受賞年付近で出現頻度が高くなっているのかどうかを検討した。また、受賞後の出現頻度の増減を調べ、その後定着するものもある一方では、廃れていくものもあり、どんな言い方がその後どういう方向に変化するのかを調べた。しかし、規則性を発見することは極めてむずかしく、単語やキャッチフレーズの個々の特徴としか言い得ないような結果になった。</p> <p>その後、新たに関心を持った集合住宅名のデータ入力を行った。大学近辺の桜上水と赤堤地区の集合住宅について、一つ一つ現地を訪問して名前を記録し、建物の古さなどを調査した。しかし、年度末までにはデータの整理が終わらず、論文としての発表は次年度になる。</p>
	研究の考察・反省	<p>今年度は、二つのテーマについてそれぞれ研究を進めたが、両方とも論文発表に至らなかった点は反省しなければならない点である。</p> <p>特に、新語の研究では、グラフを書いてそれを見るところまでは行ったが、グラフの形を目で見るアプローチではやはり限界があり、グラフの形を何とか数値として表現する方向に持っていこうと考えたが、そのあたりのデスクワークの時間が取れず、十分な考察に至らなかった。</p> <p>集合住宅の名前はおよそ千件ほど入力したので、これからその集計作業を行っていくところである。</p>
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所	<p>荻野綱男(2022. 6. 10)「体系としての敬語の分類と敬語行動」日本語学 2022年夏号, Vol. 41-2, pp. 40-41</p> <p>荻野綱男(2022. 6. 10)「固有名詞のとらえ方」日本語学 2022年夏号, Vol. 41-2, pp. 76-77</p> <p>荻野綱男(編)(2022. 9. 1)『敬語の事典』朝倉書店, 689p.</p>	研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者